“Do the 健康団地”

日野団地「憩いの家」オープン１周年!!（健康団地づくりレポート）

県が進めている「健康団地づくり」の一環として、空き住戸を活用した支え合い活動の拠点づくりに取り組んでいる横浜市港南区にある日野団地の「憩いの家」が、昨年(平成27年6月21日)のオープンから約１年が経過しました。

今回、当団地における「健康団地づくり」に携わっている、日野団地「憩いの家」運営委員会（以下、「運営委員会」)の方々から取組状況についてお聞きしました。

レポーター：この１年の取組みをふり返って、どのように感じていますか。

運営委員会：最初、県から話を受けたときは、かなり難しいかなと感じていました。

でも、うちの団地はとにかく元気な人が多いから、「あれこれ考えずに、まずはやってみよう」ということで始めたのが良かったのかもしれません。

もちろん、オープンしてからも色々と困ったことはありましたが、皆で乗り越えてきたという実感があります。

レポーター：「健康団地」は、団地住民の方々が、「体(元気)」「心(安心)」「意欲(生きがい)」のバランスを確保・維持できる仕組みをつくり、活動を行っている団地を指しており、当団地のような「まずはやってみよう」という気持ちが、このような新たな取組みには非常に大切なのかもしれません。

さて、次にこの１年の取組状況についてお聞きします。普段、「憩いの家」をどのように活用されているのでしょうか。

運営委員会：大部屋をサロン活動用、中部屋を少人数での会議用、小部屋を図書室として使っています。元々、「憩いの家」には「健康情報の発信センター」としての機能を持たせたいと考えていたため、図書室には健康情報に関する書籍等も配架しています。大部屋では、立ち寄った人たちが思い思いの趣味に没頭したり、刺繍や水彩などを楽しんでいます。

また、集会所と異なり、「憩いの家」は常にオープンになっており、相互の見守りを兼ねた楽しい「たまり場」となっています。

【小部屋】

【大部屋】

レポーター：具体的にはどのような運営をされているのでしょうか。

運営委員会：月曜と木曜は休みにしています。鍵の管理人が１名、団地内で募った住民ボランティアの６名ほどが「憩いの家」の運営に協力してくれています。テレビ、冷蔵庫、パソコンなどは、民間などの助成金で用意して、テーブルやイスなどは住民に募集をかけて寄付してもらいました。この「憩いの家」はある意味、住民による手作りで出来上がった拠点だと自負しています。

レポーター：「憩いの家」の運営は、住民の方々の「知恵」を集めながら工夫して行っているということですね。今、課題として挙げられることはありますか。

運営委員会：うちの団地は元気な人は確かに多いですが、一方で孤立している人もいます。これからは「憩いの家」に来ない人たちはもちろんのこと、地域のコミュニティに参加できていない方をどう呼び込むかが課題だと感じます。

レポーター：団地内のコミュニティにどんどん多くの方を呼び込んでいくためには、「きっかけづくり」が非常に重要だと思いますが、そのあたりはいかがですか。

運営委員会：もちろん「憩いの家」に来ることがきっかけになるのも良いし、そのほかでもきっかけは何でも構わないと思います。

　例えば、平成 28 年３月に県から紹介のあった「歯と口の健康相談会」も、「食」に関連する歯や口腔のケアということを通じて、住民どうしの繋がりの「きっかけ」になることもあると思います。今後もこのようなイベントがあったらどんどん声を掛けてほしいです。

【歯と口の健康相談会】

レポーター：「歯と口の健康相談会」の際は、受付や参加者の誘導など、ボランティアの皆さんが活躍されたそうですね。「健康団地」の取組みは、県の住宅部局だけではなく、保健福祉部局とも連携して行っている取組みですので、今後もそのような機会を活用できたらよいですね。最後に、今年度の取組みについて教えてください。

運営委員会：引き続き「憩いの家」での活動は充実させていきたいです。また、団地内の棟と棟の間にある広い「緑地」を活用して、コミュニティの活性化ができないか。具体的には、緑をもっと増やすとともに、皆が集える場にできないかなどを考えています。集いの拠点である「憩いの家」と連動させたいし、近隣の保育園と協力して散歩コースとして活用してもらうなど、周辺を巻き込んで地域の活性化が図れたらと思っています。

レポーター：アイディアが尽きませんね。ありがとうございました。
これからもがんばってください！

【自治会長と「憩いの家」運営委員会の皆様】